

令和6年9月定例会 一般質問議事録(抜粋)

◆三宅和広議員 てんどう創生の会、トリを務めます三宅和広です。よろしくお願いいたします。

天童ラ・フランスマラソンが11月3日に開催されます。9月2日に募集が締め切られ、5,000 人の定員をオーバーする応募があったと聞いております。多くの市民の方が関わり、そして、市外から多くの方々からお越しいただく大会です。今年も大きく盛り上がり、大成功を収めたいものです。私も、ハーフ、21キロのコースに挑戦します。ランナーとして大会を盛り上げたいと思います。

それでは、通告にしたがいまして質問をさせていただきます。

今回は、職員の意識改革についてと、教員の負担軽減のためのICTの活用についての2点についてお伺いします。

初めに、職員の意識改革についてお伺いします。

山本市長は、これまで、16年間にわたり天童市行政のトップとして市職員と接し、職員の資質向上や意識改革、組織の活性化のために様々な取組を進めてこられました。就任5年目に当たる平成25年には、天童市職員能力開発基本方針を廃止し、天童市人材育成基本方針を新たに策定し、人材となる職員の意識改革と組織の活性化に取り組まれました。

この基本方針では、天童市職員として求められる職員像として、次の三つを上げています。一つ目は、天童市を愛し、明るくよりよい未来の天童市の実現に向けて行動する職員、二つ目は、新たな発想とチャレンジ精神を持ち、スピード感を持って積極的に行動する職員、三つ目は、多様化する市民のニーズを的確に把握し、市民の視点に立って考え、社会情勢の変化に対応できる職員の三つです。

こうした職員像を現実のものにするために、具体的な取組がなされたものと思います。それらの取組が職員の意識や職員のモチベーションに与えた影響など、その成果はどうだったのでしょうか。また、それらの取組を進める中で、課題となるものはなかったのでしょうか。もし課題があったならば、どのように対処していけばいいとお考えでしょうか。

今回は私から具体的な提案をするつもりはありませんが、今後の市政運営の参考とするために、職員の意識改革を進めるための方策について、山本市長のお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

次に、教員の負担軽減のためのICTの活用についてお伺いします。

小項目として、AI、人工知能を活用したデジタル採点システムの導入についてと、特別支援教育を支援する教育ソフトの導入についての二つがあります。

まず、AIを活用したデジタル採点システムの導入についてお伺いします。

AI、人工知能がテストの採点を手伝うデジタル採点システムを導入する自治体が増えてきています。現在使っている答案用紙を、コピー機などの複合機でスキャンしてパソコンに取り込み、専用のソフトを使い、一つの文字や数字で答えるような選択問題を自動で採点したり、記述式の回答では、設問ごとに回答を一覧に表示して採点業務をサポートしたり、合計点や設問ごとの点数を自動で集計するというものです。これにより、採点業務の負担軽減を図ることができ、勤務時間の削減が図られ、教員の働き方改革につなげることができるとされています。

文部科学省が昨年改訂版を出した働き方改革事例集では、デジタル採点システムを導入することにより、教員1人当たり1回のテストで約5時間、年間で 25 時間を削減したという事例が紹介されています。あわせて、事例を提供した学校の職員からは、「採点後の点数計算のミスがなくなった」、「採点時間の短縮化に加え、成績処理に関わる教員の負担を軽減した」という声も紹介されています。

採点業務が多い中学校では、勤務時間の大きな削減効果が見込まれ、教員の働き方改革につなげることができると思われます。本市においても、このデジタル採点システムを導入してはどうでしょうか。

次に、特別支援教育を支援する教育ソフトの導入についてお伺いします。

山形市では、特別支援教育を支援する教育ソフトを、今年度から、全ての小・中学校 51 校に導入しています。この教育ソフトは、特別支援学級などで特別支援教育に携わる先生方の知識の獲得、個別の教育支援計画や指導計画の作成、日々の指導といった業務を包括的にサポートすることにより、学校現場における教育の質の向上と教員の負担軽減を図ることができるものだそうです。

山形市では、この教育ソフトを導入することにより、教育ICT環境が非常に高い水準で整備されたことになり、これらの環境を生かした授業のさらなる改善を図り、

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることができるとコメントしています。本市においても、この特別支援教育を支援する教育ソフトを導入してはどうでしょうか。

以上、1回目の質問といたします。

◎山本信治市長 三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

「職員の意識改革について」の「これまでの取組の成果と課題について」申し上げます。

私は就任以来、市役所改革の一つとして、職員の意識改革を掲げてまいりました。市民の目線に立ち、丁寧な対応や挨拶の徹底、慣習や前例踏襲を根底から見直し、主体的に問題意識とスピード感を持った対応を心がけることに力を入れてきたところであります。

特に、人材育成につきましては、平成 24 年度に天童市人材育成基本方針を策定し、職員研修の充実を図り、行政課題や市民のニーズに迅速かつ的確に対応できる職員の育成に努めてまいりました。内部の基本研修科目には私の講話も取り入れ、職員との直接対話を通した意識改革の実現に向け、自ら取り組んできたところであります。

これまでの取組から、職員の意識改革も進み、意欲と能力のある職員も一定程度育ってきていると感じておりますが、個々の意識改革が組織としての意識改革へと実を結ぶためには、管理職職員のさらなるリーダーシップの発揮や組織内における議論の活発化など、不断の取組が重要であると考えております。

今後は、令和5年 12 月に総務省が示した人材育成・確保基本方針策定指針に基づき、本市の新たな人材育成基本方針を策定する予定であります。この方針を踏まえ、これからの天童市を担う職員の意識改革を継続できる体制に整えてまいります。

◎相澤一彦教育長 三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、「教員の負担軽減のためのICTの活用について」の「AIを活用したデジタル採点システムの導入について」申し上げます。

令和5年度の市内小・中学校に勤務する教職員の時間外在校時間の月平均は、令和4年度と比較して、小学校は16.1パーセント、中学校は4パーセント短縮しております。これは、働き方改革に対する意識の向上に加え、校務支援システムやデジタル学習教材の活用などにより業務の効率化が図られた結果と認識しております。

デジタル採点システムにつきましても、教員の業務負担軽減に寄与するシステムであると認識しておりますが、導入に伴い必要となる機器や現行のシステムとの兼ね合い、導入することで教育上損なってしまう効果等を検討する必要があります。学校支援の優先順位を含め、デジタル採点システムの導入について、様々な視点から検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、「特別支援教育を支援する教育ソフトの導入について」申し上げます。

市教育委員会としても、特別な支援を要する児童・生徒を含む一人ひとりへのきめ細やかな支援は重要であると考えております。これまでも、特別支援教育に関する人的支援を行ってきておりますが、教職員が行う日々の業務の負担軽減を図り、市全体の特別支援教育力を向上させる上で、特別支援教育を支援するソフトの導入は効果的であると捉えております。

既に、市内4校で特別支援教育ソフトの試行導入を実施しておりますので、アンケートの結果を基に、市全体での導入に向けた効果検証を進めてまいりたいと考えております。

◆三宅和広議員 御答弁ありがとうございました。

まず、職員の意識改革のほうでございますが、これ、私の主観なんだと思うんですが、皆さん、そう感じないのかもしれませんが、天童市の人材育成基本計画に求められる職員像ということで、新たな発想とチャレンジ精神を持ち、スピード感を持って積極的に行動できる職員という方、あんまり多くないのかな、少ないのかなという気が私はしております。先ほどの市長の御答弁の中では、主体的にスピード感を持ってやっていらっしゃる職員が増えてきているというようなことがあったかと思いますが、なかなか、まだまだ足りないのかなという認識をしております。

私も、国家公務員だった時代がありますけれども、やはり、公務員としてもっと活発に行動しなければならないなというようなことを感じたときもありました。全国の係長クラスの勉強会があったんですけれども、それに大学から出してもらったりして、そこに集まった方々と接すると、やっぱり意識が違うなと、レベルが高いなというふうな気がしたことがありました。今の職員の方々見ても、一生懸命やっていらっしゃるんだとは思いますが、スピード感を持って主体的に行動をするような職員の方がもっとも増えてもいいのかなという気がしております。その辺のところ、市長、いかがでしょうか。

◎山本信治市長 職員の意識改革というようなことであろうと思うんですけれども、非常にこれ、難しい課題だと私は思います。

まず、職員は、その気になっていただくということが最も大事なんですけれども、じゃ、その気になっていただくにはどうするんだというようなことなんですけれども、私は、そういうものが、決定的なものがあるのであればぜひ三宅さんのほうにも教えていただきたいんですけれども、私は、今もやっているんですけれども、職員の研修なんかも相当、年間数えますとやっております。そうしたものを、職員自身がそれぞれ一つ一つ消化していただいて、そして、それを日頃の業務に生かしていただくということにつながるかどうかということでもありますので、こういうことをあきらめずに、一つ一つ丁寧に職員の皆さん一緒になって研修をしていくことが大事なんだろう、取りも直さず、最もそういうことが基本なんだろうというふうには思います。

職員が、三宅さんから見ると、そうやってやっている職員が少ないように見えるということであるのであれば、それはそうかもしれません。しかし、私は、認めるところは認め、そして、職員のやっている姿もきちっと見つめていく、そういうようなことの中で、職員に自覚を促していきたい、こういうふうに思っておりますので、ぜひその辺のことは御理解いただければありがたいと思います。申し訳ございません。

◆三宅和広議員 私も、今の職員が駄目だということを言いたいわけではなくて、もっともっとレベルアップしてほしいなという気持ちで申し上げます。

今、市長がおっしゃった研修の中でということがありましたけれども、確かに、今、天童市でやっている取組としては、研修いっぱいやっています。ただ、その職員の意識を改革するということに、研修だけでは実現できない部分が多分あるのかなという気がします。

先ほどの基本方針の中に、具体的に取り組むべき方針というものが三つほどあります。人を育てる職場環境の整備、それから、職員研修の充実、人材育成型人事管理ということで、この三つを人材育成に取り組むべき方針というふうに定めておりますが、この中の1番目の人を育てる職場環境の整備という部分が、多分、ほかのものよりも遅れているのかなという気がします。

職員研修は、多分、大変充実していると思いますし、人材育成型人事管理のほうも、評価システムをつくったりいろいろやられていますけれども、その職場環境の整備というところで、多分、もっともっとやれるところがあるのかなという気がします。

これ、具体的にどういったことが必要なのかというのは、ちょっと私もこれから勉強していきたいと思いますが、例えば、今、週休3日制を取り入れる自治体が増えているとか、そういったことによって、自分の自由な時間が増えていったりなんかというところがあって、職員の意識を変えられるというようなことをやっているような自治体もあります。そういったことが必要なのかという気がしております。その辺、いかがでしょうか。

◎湯村耕司総務部長 恐れ入ります、私からお答えいたしますが、ただいま三宅議員のほうからございました週休3日制というようなお話もございましたけれども、そのようなものも含めてなんですが、適切な人員体制、あるいは休暇の取りやすさ、あるいは、育児や介護と仕事の両立というような、様々な観点から、そういった手法を取り入れられている自治体、大分出てきておるというふうなところで、私どもも認識をしているところでございます。

そうした自治体の事例を、今後、参考に研究させていただきまして、期待できる効果、どの辺にあるのかということも見極めつつ、取り入れられるものについては取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

三宅議員おっしゃるとおり、職場環境の整備、これにつきましては、人材育成の観点からも最も重要な部分であるということで認識してございますので、こちらについては、市長答弁のほうにもございましたけれども、管理職の職員、あるいはリーダー的な職員のリーダーシップの発揮といったところが、やはり、今後大変重要になると考えておりますので、そうした部分も含めて取り組んでまいりたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

◆三宅和広議員 よろしく願いいたします。

先ほど、市長答弁の中でも話が出ました人材育成確保基本方針策定方針に係る報告書というものが、昨年9月に出されておりました、それを踏まえて、多分これから天童市の方針も変わっていくのかなという気がしております。

策定方針の中に、職場環境の整備という項目がありまして、「多様な人材の活躍を可能にする職場環境の整備」とか、「働きやすい職場の雰囲気整備」とか、「職員のエンゲージメントの把握」、これ、エンゲージメントというのが、組織に対する愛着とかそういったものだそうです。そういったものがどのくらいあるのかというものを把握するようなことが必要だなってことがありますので、そういったことも参考にされて、ぜひ取り組んでいただければと思います。そうすると、もっともっと元気な、活発な、覇気のある職員の方がいっぱい出て、増えてくるのかなと期待しております。

これを考えるきっかけになったのが、この前の天童夏まつりで、職員の皆さん、花笠おどりを踊られました。私も、練習会が2回あったんですけども、1回だけ参加させていただいたんですが、なかなか参加される方が少ないなというふうに感じました。本番も見させていただきましたけれども、その前の団体が山大的四面楚歌という元気な団体だったせいもあるのかもしれませんが、何か声もあまり小さくなく、踊りも、ちょっとダイナミックでないというようなイメージがありまして、もっともっと元気に、お祭りなんだから、騒いで盛り上げようという意識を持ってほしいというのが、今回考えたきっかけでもあったものですから、そういったことを申し上げさせていただきました。

ぜひ、新たなこの策定方針決められるときにそういったことも取り入れられて、元気な職員が増えるようにしていただければと思います。よろしくお願いいたします。

デジタル採点システムのほうに移りたいと思います。

今年の2月だったかに、文部科学省のほうで、GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストというものが調査されました。各学校設置者向けということになりますので、教育委員会のほうに、多分、調査依頼があったのかなと思います。

自己点検によって自治体別の校務DXの達成状況というものを調べたもので、この結果、天童市の場合、540 点が満点なんだそうですが、325 点だったそうです。達成状況は 60 パーセントという達成状況になりました。60 パーセントというと、あまり達成状況思わしくないのかなというふうに感じたところでございます。

今回御提案させていただいたデジタル採点システムですけれども、他自治体ということで、春日市とか、名古屋市とか福岡市、宮崎市、それから宮城県、福島県とか岡山県とか、県単位のものは高校で採用しているんだと思いますけれども、大分増えてきているなという気がしたところでございます。

先ほどの教育長の御答弁の中で、令和5年度については、令和4年度から比べて小学校では 16.1 パーセント、中学校4パーセント削減されたということで、中学校のほうで削減の率が低いわけなんですよ。といったときに、やはりこの中学校で定期考査、それから、中間テストとかいろいろ、年間何回かあるわけなんですけれども、そこのところで削減すれば、大分よくなるのかなというふうなことが感じられたところでございます。

先ほど、教育長の御答弁の中で損なうものもあるというお話がありました。これ、具体的にどのようなものが御説明いただきたいと思います。

◎相澤一彦教育長 議員の御質問にお答え申し上げます。

まず、お答えの前に、議員の質問の全般は、全体を通して非常に、学校現場の働き方改革等、改革を進めるということを支援したいという思いが伝わりましたので、感謝申し上げたいなと思います。失礼しました。



教育上損なってしまう効果なんですけれども、実際、このソフトの中身を私も調べるに、完全自動化する部分は、選択式や簡単な記述の部分はコンピューターで簡単になるんですね。したがって、私は、テスト的なものを策定するときに、そういったものが増える傾向にないのかどうかという問題、しかしながら、子どもたちに問われている力は、思考力や表現力というのはこれからの時代非常に大事だと言われているので、そういった傾向になっていかない、つまり、現代求められている学力と違う、暗記的なものに左右されないかという心配が1点目です。

2点目は、教師が採点しながら、私もずっとやってきたわけなんですけれども、採点することによって、つまずきに気づいたり、本人の変化や成長に思いをはせたり、さらには、そのフォローをどうするのか、今度自分の授業をこう変えなければならぬなという思いが、結果がばんと出ることによってないがしろにされないのか、しかも、このそういう仕事というのは教員の本家本丸なんです。デジタルトランスフォーメーションは進めなければならない、しかしながら、それは譲れないんじゃないかという思いで、損なってしまう効果等を検証する必要があるというふうにお答え申し上げたところです。以上です。

◆三宅和広議員 おっしゃるように、選択肢の問題が増えるのかなという、やっぱり懸念はあるかと思います。ただ、増えないようにしましょうというような呼びかけとか、そういったことで防げるのかなという気がします。その辺、やり方なのかなという気がします。先生方が決めることなので、そう流れる先生もいらっしゃるのかもしれませんが、できればそういったことにならないような指導をしていただいて、よりよいようなものを使っていただければいいのかなという気がしました。

あともう一つ、子どもさんの変化とかに気づくチャンスがというところでございますけれども、これ、記述式のものでも先生読みますので、その気づきというのは、多分、その中でできるのかなという気がします。私も使ったことがないので、具体的にどうなのかは分かりませんが、全く見ないわけではない、その子どもが書いた答案を実際に見て、何点なのかという評価をしていきますので、その辺のところは心配ないのかなという気がしました。

このシステムを導入することによって、答案用紙に向き合う時間というのは減ります、確かに。めくる時間がなくなったりしますので、答案と向き合う時間が減る

わけなんですけれども、その分を、生徒さんに振り向ければ、生徒さんとの関わりを増やしていけるのかなと、逆に、そういった使い方のほうもできるのかなという気がしました。そういったことで、ぜひやっていただきたいなというところがございます。その辺、いかがでしょうか。

◎相澤一彦教育長 議員おっしゃる利点等も併せてあるのは認識しておりますけれども、様々な観点から、この導入については、現場の校長先生方にも問いかけしながら、やはり課題があるという話合いも持っているところでございますので、現場の声も聞きながら、実際どういう可能性があるのかをもう少し検討する必要があると、これは絶対しませんよというよりは、お金もシステムのこともあるわけですので、利点が確かに認められるということについては検討しながら進めてまいりたい、慎重に検討しながら進めてまいりたい、そんなふうに考えております。

◆三宅和広議員 簡単に取り入れるということではなく、やはり、いろいろ検討しながら進んでいただければと思います。

この導入するメリットということで、何個かあるわけなんですけれども、採点作業の自動化によって業務負担が軽減されるですとか、採点の制度が向上するとか、採点結果の集計とか分析をできるとか、いろんなメリットもありますので、その辺のところも踏まえて、あと、学校現場の先生方の御意見も踏まえて、ぜひ検討していただければと思います。よろしくお願いいたします。

次の、特別支援教育を支援する教育ソフトの導入についてということで、先ほど、4つの学校で試験導入をされているというようなことがございました。これからアンケートを取って、その状況を判断していきたいというような御回答だったと思いますが、実際、この4校で調査、4校での現在の状況、どのようなものなのかというようなことは何かお聞きになっていますでしょうか。

◎松本孝志教育次長 お答え申し上げます。

現在、4校で試行しているわけでありましてけれども、令和5年度の2学期から天童南部小学校、天童北部小学校、津山小学校の3校で試行をしております。また、本年度から天童中部小学校で試行しているというような状況でありまして、今現

在、試行している中で現場の声を集めているところでありますけれども、具体的には、非常に文例とか文言のサポートがしやすく、計画書の作成が作りやすくなったというような声、あと、保護者の面談等にも使えるというような、活用できるというような声をいただいているところであります。また、このソフトにつきましては、教材が非常に豊富にあって、非常に検索もしやすいというような声などもいただいているところでございます。

これから引き続き試行をしていきまして、先ほど教育長の答弁でもあったとおり、導入に向けた効果的な検証、効果検証なども行っていきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

◆三宅和広議員 今の段階ですといい内容のように聞き取れました。最終的な判断はこれからだと思いますけれども、アンケート調査を踏まえて、ぜひ検討していただければと思います。そうすることによって、担当する方が楽になるというか、業務負担が軽減されますし、それから、これによって、人事異動なんかで移ったときに、データがそのまま引き継げるというようなことがあって、そういった切れ目のない支援なんかもできるというようなことがありますので、ぜひ前向きに御検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

今回、職員の意識改革と教員の負担軽減のためのICTの活用ということで、2点について伺いました。いずれについても前向きに取り組んでいただければと思います。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。